



天明四

柳北
——
片
金



吳竹の伏見に里し西なるちとらるる谷仰ふ
 の寺あり寛文貞享のあつては持して
 いふていふて家宝興上人とや作るて
 能潜く名のやある任口りてものる
 めておつたともや上人生涯の句く風雅く
 富嶺へつていふ音く世の人口平 膾炙
 せ侍所ふれどもな平 贅せんその
 比浪連の梅翁都よおつてそをか



唐草の中立ちゆくそ 昔や竹の如く人の
とほりけりやとて争しうへ上人とあはれに
お脱やせちるまは梅のむぎととみず
句を謎のひしとちん又芭蕉翁貞享の
はゆ大和の城の國行脚のをりう
ひまの用窓を叩て我衣に伏水の
桃のやせまよいうあは茶店のつゝあそ
おうこやあうらんいとさうおうこそ
侍るいとせ其角かの地よおひし時

上人の中相見しして短冊二枚を法侍る

あぢりく刈^ねも荷お花野分

夢^ね醋も昔あるをみるあは

はもう名茶の人のころおひしむ
ちもて上人の徳行をさしあはれ
余ちりくけ里とあふけあて其る徳
をころの徳ふよこ四月十二日百年の
祥忌よあしせしとて昔上人院中
かりて近よ草屋に何とやうか智哉

いずもにふあつは啼々れハ

かりれくやう原雀はをまは

とほすさふあり筆流の今もかの里

秘苑のこころあふもいせちみまは

はく関し侍るるや実をいくはの

星やねを控へまはあふかの上人乃

知遇をあたふはといふるまのぬお

け里のこほと風流をまて同の海

うへはあふ縁を感じ侍るはしづる

懐古の情中 情んやそけお

席をすけ冥福乃御後をいふ

遠く上人の風雅の海を追ふ

あし

天明四年甲辰孟夏

洛几董謹書

西岸寺三世住口上人 貞享三丙寅年四月十三日寂
是歲天の四甲辰年既正當一百年也

旅伏水興行

懐旧之俳諧脇起

かしのくさくさ 萩のつばき

其古き中 白ふ會櫓 賀瑞

丁しと暮をうつし 宵のそよ 几董

睡るま皇子う横つ 乃月 春坡

ある地の血あわねて 或るらん 松化

やうくわう 津門の帘 買山

びんたにも始るま 旅乃人 湖陸

くらんあきハ 惟もあむお 其韻

とめを金のあきとえ 娘おれ 楚尺

寒のあきりと 疔をえんし 鹿卜

うして 娘おらん とらこりて 瑞

あはし ちあきあき 中川の家 董

光琳の彩色元——暮乃月
 秋うつろふ夢乃海に
 肌きくかくある兜首
 紀の園やの情こほりど
 移挿いかに梅も老を
 ごとくよみされ嘆け
 花ゆへ般若よむある葉のさ
 あや——ふ翁 ぬち——イ
 瑞 ト 尺 心 化 韻 陸 坡

くれもの塔あはゆり——と打捨て
 つまよふ恋を志のあましく
 志げの凄くや串の光ん抱
 風もほそりて粟の乾ちほ
 米はあ脊戸の井のきこほり
 あおりの人をとくしよ
 黄昏下と老をぬれぬは
 ともや 見えぬ三日月の光
 董 坡 陸 韻 瑞 心 尺 卜

あぢむの海越者く管あけて

筆の捺相を又ぬはむし

市もあるくさくおろよ雪の朝

手負し一柱の弱ある町

何あつりあまうはのむ物

やそりひそく曉のさ

百年のほも春来て苑の度

蛙もくさふ法のはむろ

化

董

坡

瑞

ト

陪

成譽上人

執筆

遠列侯依水在城の
をりやうあまのい
げさもいおりの
古わあるの喫茶の
なあるしと

西岸寺

成譽

り炊のちよはあやほいよん

四月正當の日
もて上人の
はもを侍る

沙路仏と吹日もあるよ
よ

ハ

葭原雀 子規

ほろもちをなれちをまて一言ち雀英
ちちかひ啼こころいふ嘘れり百憚

此の言ひ伏水の古くあまの
言ひ中かたけのほろもち

かろひりもあはれたまのをきかしく 柳女

蛇や蛇あてり月もあましく 賀瑞

伏水の沢田にけ田はあ
人家のくまのれあはれ

あつこくつむさやけし子 湖陸

ゆきくちり啼くせと時を 其韻

あふ既葭くまをけけな 楚尺

わくもあ遠くまの遠くあいな あいな

雉の尾を月か拾ひつ杜鵑 鹿下

あまは日あ縮くましく 梅洞

あましく洞ちん家のおりち 賞山

月も啼くくまはとまは 形村

西山屋をより帰る

伏水のあ急あまのり子あ規 几董

ねえの塔の高さよほまは 両谷
我もあすいもあまのこころ 班霞
蜀魂ふのみやもねのねほち 麥里
山嶺の駕のおさちやをたれ 巴大

仕口上人をあふさる

一色の流あつこやちとまふ 百々
いそいでいそいでいそいで 子持
子あしり啼やちち男山 藤梅
よれをやねりい物くふと 新室

かこまれ松とま向の月あま 流雲
子観ゆいそいそいそい 堂とと
伏見いそいそいそい 子持
花葉いそいそい 鳥有
名の付る新田もあま 對橋
すいそいそいそい 在船 扇卦
かこむこ角のねやほち 兔山
子あしり松とちとねのね 所登
いそいそいの色ハ義や物 九北

むうし或人のまゝなり
心のおもひやおもひやうあはれ

客人の後しひるふ園も
け緒巻を おもひをた

口あはれをゆくあをすめりし 止行

河まきれ枝まのて啼しはれ 鷺馬

右伏水之句に任到座次混雜

其引 洛陽

規とく人あひらんきやうし 正巴
岸して一羽んくう 葭雀 春坡
とくしと子観ゆ休んぬ 松化
あまして管のやあよりすま 乃他女
おの後のよりう雀あけや啼 幼子 米松
二日あう二日あ流やまをし 有昌

舟中

のまらうま農め一二のまをら 几董

人買れ舟いそぐあつちき
高水や葦のたふさく仰し我則
帆のくくして葦雀も鳴あはれ湖島

芭蕉後あり

何ぞきけしきりぬるあはれ万容
起火放り流那く隈や仰し自珍
葦亦も語る月のひきまは是岩

二つみくあまの廣舟の杜き
時をあらやぬきまのくく口魚赤

嵐山園杜鵑

あはれしの花をさむれん子規 几董
かきこもふ飛の睡るをさき 熊三
ぬきまふんもあれたちおす 楚心
川舟の銘やゆるし仰し 春香
杜きあまのくくあはれ松乃月 雷夫
あはれ中油さくく何はれ 松月

晴るやと思ふおぼや 晴るや 在江戸 焚史
 子欲あやひを夜の大指を草上 菱湖
 心もやと層時此ほと 田原 也竺
 糸谷の舟志つうこまや 在京 谷水
たうほまのつるたき
 人の西交よりわたりぬれり 難波女
 おも娘 降るも意し 難波女 う先
 泉月よりおぼや 難波女 とも
 子欲し 難波女 二日月 如菊
 心もや 少子 車容

舟り 渡 人の 丹波 仙曹
 あらうや 浪華 竹裏
 伏櫛のあて 伏水 霞吹
 け 浪速 楫仙
 川島 浪速 几董
 心 浪速 一兄
 心 浪速 嘯風
 湖 浪速 二村
 百里 浪速 席風

物は我を笑ふは原毛條
まゝに鳴や昔分る茶の煙阿色
位あきし我もはひり子出水山埜
けはの舟も飛下し杜鵑 祇帆

きぬりし鳴や隣の梅黄し花堂
かよふん鳴や月沈伏ん心古貞
色さる中あふとちり仰し暮暮
竹むしる月もあふる蜀魂 社米

無山

其引

灘

河をまればおとあふれぬおの道 士川
伽羅の香とちり鳴る杜鵑 守明
川をや入舟時の仰し 士有
あしや流るるむ犬の骨 士巧
おののあふるし
おのをちり鳴る子祝 菊十
まゝ葉の笛のまゝんやまに 李久
わさげよ昔分るのおやけり子 九蓮
あしやまゝの席帆とちり 帆 佳刈

△十三
をりくち岸くさや子ゆしヒメシ馬中
より中らや水も新入る日のうらりアカシ作春
蜀冬は一壺く月の出入雪采外月居

伏水西宮なるの隣家中

ふ宿 浪花
よりあはせさうのやは 中二柳

あやしくいしやふあし あや
あはし あや

曉のうら 無言 あ あ あ 几董

米原のち あ あ あ あ 道立

旅洛遅日亭興行

あの上人の口賀中做して
懐旧乃発句をむ向する

年 あ あ あ あ あ 百の數 几董

いせ竹のち あ あ あ あ 春坡

馬次の階 あ あ あ あ 月居

新寺のた あ あ あ あ 醉 我則

い あ あ あ あ 坡

日 あ あ あ あ 董

雷立の思前の舟をいそぐら後
 居 則
 昼工ユカキおくりて 包ヒ提ヒおろく
 董 居
 むされはははさの遊女ありらや
 董 居
 果の胸ムネつゝ恋のそら言
 坡 董
 四五外ソトの梅ウメの染シメけおこほし
 居 則
 多タ仕シ事ジの目メ限リげあふ
 董 坡
 軒ケンしくよぢやりの是コト月ツキのち
 董 坡
 酔ヨて河カ舟フネありおろしお鞠マド
 董 坡

かりそめ子コ存ゾ位イ剥ヒるゝおの罪
 居 則
 旅リの枕マクラとけぬちる多タ
 董 居
 ぶらけりてあもあがり芝居者
 董 坡
 猫ネコや喉ノドらんラ籠カゴのこころ
 董 居
 苗ネまのりておのぬきをぬめうち
 居 則
 しんりあおろく酒サケやあらし
 董 坡
 習ナ習ナの供ツケまマたタさサふ
 董 坡
 横ヨコ河カの坊ボウへんのばせり
 董 坡

横河の坊へんのばせり
 習習の供またさふ
 しんりあおろく酒やあらし
 苗まのりておのぬきをぬめうち
 猫や喉らん籠のこころ
 ぶらけりてあもあがり芝居者
 旅の枕とけぬちる多
 かりそめ子存位剥るゝおの罪

何處よあそびしとぬきあせ
 八江りりもい少舟あつたる
 れ立ち城の雜穀を賣也し
 玉のすまじい貝しゆゆ
 放生會りけく三よこの舟の宿
 秋を待まふくぬのころは
 二度とれく二友息よる支はし
 じゆし儂部まじゆの島
 則居董坡則居董坡則居董坡則居董坡

おとこよ宗音弘海を汗さらし
 暎るく縮ゆしものうく
 羽平字廉ちくし遊着ちゆりこやう
 孟ちちり舟中まわりし
 水あつり石舟遊に花下鳥
 葉もむ海乃のゆきあふ
 則居董坡則居董坡則居董坡則居董坡

任は上人の遠志に
春夜先生を存仰して
佛偈の法を懐いて
筆をさす懐の
筆をさす

一日を連ふつて
よらぬを稽ふ
我則
月居

志の
の

ひとわい我を向ふ
春坡

日辰復

治書肆 橋仙堂 梓行



昭新十之十
わたりふに
たすけに
あまの
ついでに
あまの
ついでに
あまの
ついでに

